

令和6年度学校経営計画

学 校 名 三原市立西小学校
学校長名 延 安 浩

I 学校の状況

学級数	19学級	児童数		教職員数	
メールアドレス	nishi-es-info@nihara.ed.jp				
ホームページアドレス	https://www.city.nihara.hiroshima.jp/site/es-nishi/				

II 教育目標

地域に愛着と誇りを抱き、夢の実現に向け自ら学びを求め、行動できる子どもの育成
--

III 経営理念（ミッション・ビジョン）

【ミッション】（自校の使命） 自分を愛し、夢を語る児童の育成
【ビジョン】（自校の将来像） 地域・保護者の信頼を得、心から「西小で学んで良かった」「通わせて良かった」と誇りに思われる学校

IV 中期経営目標及び短期経営目標

	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための方策
働き方改革の推進	新しい時代の教育に向けた持続可能な学校指導・運営体制を構築する。	「公立学校の教育職員の業務量の適切な管理 その他教育職員のサービスを監督する教育委員会が教育職員の健康及び福祉の確保を図るために講ずべき措置に関する指針」に基づいた取組の構築と推進	① 教職員の働き方に対する意識の醸成 ・教職員研修を通して働き方改革に対する正しい理解、改革に向けた意識と意欲を醸成させる。 ・教育活動を見直し、業務改善を進める。 ② 学校・教員が本来担うべき業務に専念できる環境の整備と学校における組織マネジメントの確立 ・保護者・地域への情報発信を通して、働き方改革の必然性や重要性等の理解を図る。 ・学校経営会議や部会を通して業務の精選、学校行事等の見直し、日程の見直しや改善を図る。 ・PDCA サイクルにより、毎学期見直しと改善を進める。 (月時間外勤務 45 時間、年間 360 時間)
確かな学力の育成	主体的に学ぶ合う児童を育成し、学力の向上を図る。 「かしこく」自ら学ぶ子ども	「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業を通して、本校で育成を目指す資質・能力をもった、自ら学ぶ児童の育成を図る。	③ 研究部で昨年度の研究の成果と課題を踏まえた「主体的・対話的で深い学び」を意識した授業モデル（中心教科：国語科）を構築する。 ・本校の研究主題に全員で取り組み、仮説の検証のために計画的な授業研究を行い、研究主題に迫る授業がどこまでできたかを互いに検証する。 全国学力・学習状況調査問題通過率 NRT 調査通過率 国語科 業者単元テスト観点別平均通過率 ④ 西小学校「家庭学習の手引き」をもとに保護者に対して家庭学習の協力を促し、家庭学習の習慣化と充実を図る。 ・低学年における基礎的・基本的な家庭学習の見直しと充実（家庭学習及び学習時間の定着率） ・中学年における自主学習の習慣化（自主学習の定着率） ・高学年における自主学習の充実（自主学習の定着率） ⑤ 小中連携として定期検定テスト週間を設定し、学習内容を自ら計画させることを通して、自主学習能力と育成する。 (児童アンケート肯定的評価率)
豊かな	様々な人や事象との関わり合いを通して、社会	音楽活動と読書活動等の充実と奉仕活動等を通して、豊かな感性・豊	⑥ 学年（学級）ごとに児童の実態に応じた音楽活動に取り組み、仲間意識や表現力の育成を図る。また日常的な音声表現活動を通して、自己表現に自信を持たせる。

心の育成	性や豊かな人間性を培う。 「なかよく」心豊かな子ども	かな心の育成を図る。 特色ある地域の学習材や人材の活用と交流を通して、地域を想う心情を育てるとともに、社会貢献意識と規範意識の向上を図る。	(児童アンケート肯定的評価率) ⑦ 『読書タイム』などを活用して読書活動に取り組み、豊かな感性と豊かな心の育成を図る。 (読書目標冊数・ページ数等の達成率) ⑧ 『黙って掃除』の取組を徹底して指導し、感謝の気持ちや大切にしようとする心情を培う。またタイムマネジメントを行う力や友達と協力して任された仕事を最後まで責任もって行おうとする協調性を育成する。 (児童アンケート肯定的評価率、保護者評価) ⑨ 特別活動等を通して、自己肯定感・自己有用感を育成・向上させる。 (児童アンケート肯定的評価率) ⑩ 特色ある地域の学習材や人材の活用、交流を通して、「ふるさと学習」やボランティア活動に全学年で取り組み、社会貢献意識や規範意識の向上、お世話になった方々への感謝の意を表す活動を通して、ふるさとを愛する心情と相手意識を育てる。 (児童アンケート肯定的評価率、保護者評価)
健やかな体の育成	自らの体力と健康を向上させ、自己管理能力の育成を図る。 「たくましく」健やかな子ども	組織的・計画的実施により児童の体力の向上を図る。 食教育や保健・安全教育の推進により、自己管理能力の育成を図る	⑪ 児童アンケートや体力テストの調査の結果分析をもとに、課題克服のための取組(校内研修、運動会 外部講師による児童への直接指導、サーキットトレーニング等の改善、小中連携等)を充実させ、教職員の意識向上と児童の体力向上を図る。 (体力テスト県平均値かつ全校平均値以上達成率、児童アンケート肯定的評価率) ⑫ 保健指導や委員会活動などを通して児童に対する食物アレルギー対応などを含む食教育や保健・安全教育の改善・充実を図り、児童の自己管理能力の育成を図る。 ⑬ 研修を通して職員自身の安全に対する意識を高め、学級懇談会や各種の便り等を通して保護者啓発の充実を図る。 ⑭ 食教育について幼・保との連携を行う。 (児童アンケート肯定的評価率・保護者評価)
信頼される学校	児童・保護者・地域の願いと期待に応え、信頼される学校を創造する。	児童の安全確保に重点を置きながら「ふるさと学習」などの特色ある取組を見直し、活動を通して児童の地域や学校に対する理解や愛着を深め、誇りに思う心情を育成する。 結果責任を伴う説明責任と積極的な情報発信を通して信頼される学校づくりを行う。 教職員による不祥事を生起させない。	⑮ 生活科や総合的な学習の時間、学校行事等を通して地域の特色ある学習材を活用した「ふるさと学習」を安全面から見直し、活動の充実に積極的に取り組み、児童の故郷に対する見方・考え方の変革を図り、地域や学校に対する愛着を深める。 (児童アンケートにおける肯定的評価率・保護者評価) ⑯ 学校・学年・学級等の便りやHP等を通して、学校の教育活動について、取組の目的や内容、成果や課題等を積極的に発信し、学校の取組姿勢について評価を受け、改善を行う。 (保護者・学校関係者評価) ⑰ 前年度の課題を受け、不祥事防止委員会を中心に計画的な研修を実施し、不祥事根絶に向けた教職員の意識を維持、向上させる。